

BAJ(ブリッジ・エーシア・ジャパン)技術訓練学校を訪問

日本ミャンマー協会ミャンマー総合研究所は、JICAの委託を受け、(株)パデコ様などとともに、ミャンマーにおける職業訓練教育の実態調査を行っています。5月下旬からの2回目の調査では、首都ネピドーで関係省庁を訪問するとともに、いくつもの職業訓練学校や関係機関を訪れました。このうち、今回はカレン州パアン市にあるNGO法人「ブリッジ・エーシア・ジャパン」(BAJ)が運営する技術訓練学校を紹介します。

同校は2013年12月、外務省のNGO連携無償資金などを元に、BAJがミャンマー国境省、カレン州政府の協力の下、教育の機会に恵まれなかった若者たちに、質の高い技術訓練教育を行う場として開校しました。パアン市はヤンゴンから車で6時間かかる場所で、風光明媚な土地ですが、めぼしい産業もなく、町で話を聞いた若者たちはヤンゴンなどで働くことを望んでいます。しかし、周辺には十分な教育を受ける施設もなく、BAJの訓練施設には高い期待が集まっています。

BAJパアン事務所の吉田伸也所長によると、同校での技術訓練は、建設、自動車整備、電気、溶接などの各科に分かれていて、それぞれ30人が3ヶ月から半年間学びます。各科の授業は基礎的な技術を備えたスキルワーカーを育てることを目的として行われています。整理、整頓、清掃、清潔、しつけと言った日本企業では当たり前の「5S」教育や、理論に裏付けされた実習や、地元企業と組んだOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を通じて、本当に使える技術を身につけさせることが目標です。

指導にあたるのは、それぞれの分野の現場で働いた経験を持つミャンマー人で、彼らを指導するのが日本人の専門家です。BAJ職員のほか、交代で長期滞在する各分野の専門家が、アドバイスをすることで、「正しい、国際標準の技術指導」を行っています。

今回訪れた6月はじめには、空調や配管、溶接などを専門とするシニアボランティアの械塚是秋(かいづか・これあき)さんが、4月から12月までの予定で技術指導に当たっていました。械塚さんは、図表や写真などを使って安全対策を徹底するだけでなく、毎朝自ら率先して工場の清掃を行うことで、指導員や学生の5Sに対する意識の向上をはかっています。

また、自動車整備科の指導をしている久由美(ひさ・ゆみ)さんは、自動車整備士2級と自動車検査員の資格を持っており、指導員らに、テスターを使って故障箇所を特定する方法などを教えていました。

こうした取り組みに加え、吉田所長自らがしばしばヤンゴンに出向き、日系企業などに訓練修了生の採用を働きかけているのも、BAJの訓練学校の特徴です。単に職業訓練を行うのではなく、就職先も手当てをするという日本的な取り組みが、ミャンマー政府からも評価されている理由といえます。実際、これまでの修了生の就職率は78%超で、日系企業も18人が就職しているといえます。吉田所長は、今後は電気科の訓練機関を3ヶ月から6ヶ月に延長するなどし、より企業ニーズに合わせた訓練を行いたいとしています。

ただ、溶接の技術者への需要が高いのに対し、学生の人気は自動車整備科に集中するなど、応募に偏りがあることや、寮費や食費などが全額無料のため、資金の確保も大変だといえます。このため、当初6年間の計画期間終了後、ミャンマー側が同校をうまく引き継いで続けていけるよう準備を進める時期を迎えているようです。

BAJ(ブリッジ・エーシア・ジャパン)技術訓練学校を訪問



シニアボランティアの械塚さんは、イラストや写真を多用し、訓練生に安全確保の重要性を教えているという



カレン州でもみかけるのは日本車ばかり。自動車整備科の募集はいつも定員オーバーだとか